◎11 月定例会　「秋を楽しむ」　11 月５日(木)晴れ　参加者 19 名（体験１名）

～爽やかな秋晴れの下　川崎市立日本民家園で古民家を見学し、一日を楽しみました！～

　朝から雲一つ無い青空が広がり、雪化粧した富士山が車窓からくっきり見えました。
11:00 に参加者 19 名が小田急線向ヶ丘駅に集合し、体験参加者を紹介し出発しました。
　歩き始めると間もなく汗ばむような陽気に上着を脱ぎ、15 分程で「川崎市立日本民家園」正門に到着。日本民家園は、高尾山麓から神奈川県東部にかけて広がる多摩丘陵の一角にある起伏に富んだ生田緑地内にある古民家の野外博物館である。正門から奥の西門に向かって上りが続く斜面を利用し 25 件の古民家が点在し、全てが国・県・市の文化財指定を受けています。
　いずれの古民家も土間まで入って見学できます。昼食を摂る予定の一番奥の「船越の舞台」に 12 時半位までに着く予定で出発。宿場エリアの「**三澤家住宅**」(伊那街道の伊那部宿にあった薬屋)ではこの日唯一の**床上公開**が開催されていました。数名のボランティアガイドが囲炉裏で薪を燃やしたり、建物の構造や間取り、三澤家の仕事内容や家柄について説明してくれました。栗の板を使った屋根は釘１本も使わず横木と石だけで押さえてあり、去年の台風でも全く被害が無かったそうです。
　信越の村エリアの佐々木家住宅の前庭には４棟の**合掌造り**(富山県五箇山３棟と岐阜県白川郷１棟)が一度に見られる光景は圧巻でした。山田家住宅の合掌造りにいたボランティアガイドが、同じ五箇山の合掌造りでも地域により様々な違いがある事を説明してくれました。神奈川の村エリアの岩澤家住宅前からかなり急な階段が続き、登りきると「**船越の舞台**」に出ます。

　江戸時代[安政４年(1857)]年に志摩半島の漁村に建築された、回り舞台を備えた歌舞伎舞台です。
　戸が１枚開けてあり、そこから舞台の様子や大きな[直径約３間(5.45m)]回り舞台が見えます。回り舞台を人力で回転させる装置は建物地下の奈落に設置されていますが、現在は新型コロナのため入る事ができません。舞台前にはひな段状に 300 席分のベンチが設置されています。丁度木陰になっていて、ゆったりと昼食を楽しみ、体験参加者や会員各々が自己紹介をしました。

昼食後は、西門がある伝統工芸館で藍染めの設備や原料になるタデアイ(蓼藍)を見学。ここから午前中に見てない建物を見学しながら正門まで戻りました。各古民家はその地域の環境や生業等により建物の構造が異なり様々な工夫がなされている様子を見ることが出来ました。園内は高い木々が生い茂り、秋の日差しを浴びて輝く黄葉やモミジの紅葉が始まっていました。
午後３時頃向ヶ丘遊園駅で解散しました。

報告：新井建男